

情報活用能力の育成

I 研究の内容

今日、情報化社会が急速に進む中、学校教育においては、子どもたちに情報活用能力を育成することが急務とされている。同時に児童への指導のためには教員の指導力の向上も求められている。本部会では上記テーマを設定し、児童の情報活用能力の育成と教員の指導力向上を目指し研究を進めた。

1 研究の方法

- ①情報モラルカリキュラムの充実(検証授業)
- ②情報モラルアンケートの実施
- ③情報活用能力(活用できるソフトの紹介等)

情報活用能力のとらえ方

- ①情報活用の実践力
- ②情報の科学的な理解
- ③情報社会に参画する態度

2 研究の具体的内容

(1) 情報モラルアンケート実施

- ①目的 現在の東山梨の小学生について、パソコン、携帯電話の使用状況を把握する。
- ②対象 山梨・甲州市の小学校6校(本部会員)の6年生 143名
- ③調査日 平成24年6～7月
- ④アンケート結果の考察

☆パソコン利用について

今回の調査は大規模校1校、小規模校5校という中で行った。小規模校は比較的市街地より離れたところにあり、インターネット環境も完全とはいえない地域もある。そんな中での調査のため、全国的な調査結果に比べるとパソコンの使用率やトラブルに遭遇する件数も少ないと言える。しかしこれから通信環境が整備され、パソコンだけではなく、各種の機器がインターネットに接続されるようになると、全ての調査項目の結果が全国的な調査結果に近づいていくものと推測される。だがトラブルに巻き込まれる件数等が増えることがないよう、学校と家庭が一体となった指導を行い、児童が安全にパソコンを使用できる環境を作っていききたい。

☆携帯電話利用について

児童の「自分で使える携帯電話がある・・・30%」は文科省の調査結果よりは少ない。これは保護者・児童とも携帯電話の必要性をあまり感じていないものと考えられる。それは都市部で見られるような、電車やバスなどを使った通学・習い事などが非常に少ないためだからではないだろうか？また下校後の行動範囲が狭いため、特に連絡を取り合う必要も無いからではないか？このような現状のうちには、児童への携帯電話の普及率は上がらないものと思われる。だが、社会情勢の変化でその普及率が増したとき、学校や家庭ではどのように指導していけばいいのか？。児童が携帯電話のトラブルに巻き込まれることの無いよう、これからもこの調査により携帯電話の推移を見守り、実態に応じた指導を行っていききたい。

(2) 情報モラルカリキュラムの充実(検証授業)

①第3学年 総合的な学習 単元名 「言葉づかいを考えよう」・・・8月

ア) 単元の目標 ○ふだん何気なく使っている言葉が、人間関係や学級全体の雰囲気
に影響を与えることに気づき、互いが相手の立場を考えた言葉づ
かいで自分の思いを伝えられるようにする。

イ) 内容

- ・アンケートで自分の言葉づかいについて振り返る。(言われて嫌だった言葉、言われてうれしかった言葉、つい言ってしまった言葉)【事前】
- ・一日を振り返り言葉づかいについての反省カードに記入する。【事前】
- ・アンケートや反省カードをもとに、相手の気持ちや立場を考えた言葉づかいについてグループや学級全体で話し合いをもつ。【本時】
- ・継続して反省を書き、反省をもとに言葉遣いについて自分なりの目当てを立てる。【事後】

②第3学年 道徳 単元名 「自分の作品だれのもの」・・・2月

ア) 単元の目標 ○作品には作者の思いがあり、他人が糧に使ったり変えたりしては
いけないことに気づく。

○他人の作品を尊重する態度を育てる。

イ) 内容

- ・子どもたちイラストを描かせ、そのうちの何名かの作品に手を加えたものを用意する【事前】
- ・教師が手を加えたものを提示し、作品に手を加えられた児童の感想、また他の児童の考えを聞く。その中で人のものを勝手に使ったり、手を加えたりしてはいけないことを知る。【本時】
- ・著作権という言葉やその意味を知り、作品を作った人の思いを考え、他人の作品を尊重する気持ちを深める。【本時】

(3) 情報活用能力を高める研修

フリーソフトの紹介や活用の仕方、電子黒板等の活用についての学習会を行った。

II 成果と課題

1 成果

- ・情報モラルアンケートを実施し、その結果を分析することで、児童のパソコン・携帯電話使用についての現状を把握することができた。
- ・総合的な学習の検証授業では、言葉に対する認識を役割演技することで理解させることができた。学級作りとして有効な方法のひとつであることが検証できた。
- ・道徳の検証授業では、児童にとって難しく思える著作権というものの理解を図るために児童の作品を使うことは有効な手段であることが検証できた。

2 課題(昨年のもの)

- ・情報モラルアンケートの実施結果を授業等でどのように活かしていくか。
- ・作成した情報モラルの指導案をどう広め、どう活用していくか。他の先生方へ発信していく手立てを考えていくことも必要である。
- ・通信表や要録、出席簿、校務処理の効率化につながる情報、その他、授業に使用する資料・サイトなど、有益な学習教材等を交換しあう機会を来年も設けてほしい。

III 研究の成果物

情報モラルアンケート

(部長 野尻政彦)